

優秀賞

一歩踏み出す勇気

栗山町立栗山中学校 3年 ^{おがた}尾形 ^{めい}芽生



人は、目標を持った時にあきらめるまで何回チャレンジするのでしょうか。アメリカの哲学者ナポレオン・ヒルが男女三万人にこの調査を行った結果、平均〇．八回だったそうです。つまり、ほとんどの人が目標を持ってチャレンジせずにあきらめてしまっています。

私も失敗することが恐くてあきらめることがあります。例えば授業中、答えがわかっていながら、発言をためらってしまうことです。なぜ発言しなかったのだろう、と後悔してしまいます。ですが、後悔したくない、という思いから、何事にもチャレンジしよう、と考えるようになりました。

私には、チャレンジしてよかった、決断してよかった、と実感できた二つの出来事があります。

一つ目は、飲酒運転撲滅の啓発を目的としたSDD全国こども書道コンクールに応募したことです。最初は軽い気持ちで応募しましたが、飲酒運転について調べたり、周りの人に聞いたりすることで、飲酒運転の怖さや、ルールを守ることの大切さを学ぶことができました。また、北海道・東北ブロックで優秀賞を受賞することができ、表彰式では、ラジオに出演したり、普段の生活ではなかなか会うことのできないラジオパーソナリティーの方や、他の受賞者の方々と出会うことができました。自分では気付かなかったことや、自分とは違った視点からの話を聞くことができ、コンクールに応募してよかったと思いました。

二つ目は、小学生の頃から続けているサッカーについてです。中学入学時から、今年一月まで札幌のクラブチームに所属していましたが、岩見沢のクラブチームに移籍しました。移籍を決断するには、勇気が要りました。札幌のチームでは、なかなか試合に出場することが出来ず、目標を見失ってしまうことが

あり、新しいチームで自分に合った目標をつくりたいと思うようになりました。ですが、今の仲間ともサッカーをしたい、という思いも強く、なかなか決断することができませんでした。チームメイトに辞める話をした時、はじめは突然でおどろかれましたが「チームを辞めても友達だよ。」「また一緒にサッカーしようね。」と言ってくれました。「裏切った」や「逃げた」などの後ろ向きな言葉ではなく、前向きな言葉をかけてもらえたことで一歩踏み出しやすくなりました。今は、移籍をする、という決断をして良かったと思います。新しいサッカー仲間ができ、新たな目標に向かって日々練習をしています。

この二つの体験から、一歩踏み出し挑戦することの大切さを学びました。

私が一歩踏み出し挑戦しようと考えようになったきっかけに、父の存在があります。

私の父は、教師をしながら日本サッカー協会でゴールキーパーコーチとして活動しています。はじめは少年団コーチとして指導をしていましたが、より多くのことを学ぶため、常に新しい挑戦をし、日本サッカー協会のコーチとして、関わるようになりました。今では、私がとても尊敬している元日本代表の川口能活選手と共に指導することもあり、おどろきと共にすごいことだなと感じました。

これからの日本は『人生一〇〇年時代』と言われていています。これは、「ライフシフト」の著者であるイギリスの経済学者リンダ・グラットン氏が「日本の二〇〇七年生まれの二人に一人は一〇七歳まで生きるだろう」という提言からきています。これからは、いくつになっても学び直しができ、新しいことにチャレンジできる社会になり、異なる活動を平行して行うことができると考えられています。そのためには、主体性を持ちつづけ、行動するための一歩が大切になります。

私は、自分の意志で決断し、一歩踏み出す勇気を持ちつづけたいと思います。